

## コンバインによるナタネの収穫について (第2報)

芝 宏道・増田治策・日野 亮・高木文男・井手上孝・宮越秀一  
(九州農業試験場)SHIBA, H., MASUDA, J., HINO, R., TAKAKI, F., IDEUE, T. and MIYAGOE, H.  
On the Harvesting of Rape-seed by Combine (II)

コンバインの稼働率を向上して経済的な利用を計るためにコンバインの汎用性を検討する。

本年はナタネの収穫に利用した場合の損失について調査したので報告する。

## 1. 方法

## 1) 試験区

供試機型式名		パウツ T 600 (ホイール型)					
作業条件	前進速度(%sec)	0.72	0.72	0.91	0.91	0.72*	0.91*
	平均刈幅(m)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.80	1.80
	平均刈高(cm)	15.0	30.0	15.0	30.0	15.0	15.0

但し \*記はリールを使わない場合である。

## 2) 作物条件

栽植様式・密度 条播(条間15cm) 147 本/m<sup>2</sup>

子実収量 11.0 kg/m<sup>2</sup>

含水率 穀粒21.1% 稈12.9%

なおコンバインの刈取りには熟度が進みかなり過熟の状態であった。

## 3) 調査方法

## (1) 測定区の選定と試料の採取

測定区間は予備刈りを40m行なった後10m間を測定した。

## (2) 頭部損失の採取

刈巾一杯に0.5mの長さで各条間(15cm)にネル布を敷き、落下量を採取した。

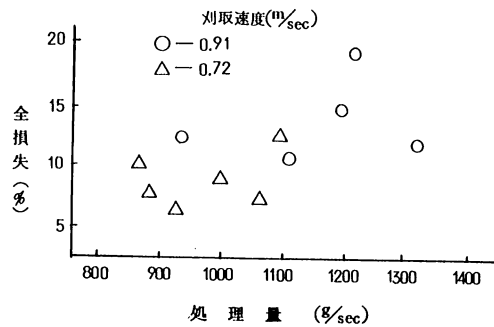
## 2. 結果

1) 刈取り速度別刈取り距離と穀粒口流量との関係: ナタネのコンバイン収穫では刈取り距離が40mまでは穀粒口の流量は漸増する。そのためコンバイン試験の場合は最低40m以上の予備刈りが必要である。

2) 処理量と全損失の関係: 刈取り損失は第1図に示すとおり7~16% (二区平均) で、損失の99%までは頭部損失である。

刈取り損失は処理量の増加によって多くなり、刈高よりも作業速度の影響が大きい。

第1図 処理量と全損失の関係



3) 頭部損失の関係: 頭部損失の分布は第2図に示すとおりデバイダー部分が多く、次にカッター部分が多い。デバイダー部分の粒の飛散は未刈り、既刈り部に45cmにおよんでいる。そのためデバイダーについて検討の必要がある。

頭部損失の発生はデバイダー、オーガーなど直接振動によるものであるため熟度と各部の損失についての検討が必要である。

第2図 頭部損失の分布

